

夏休みを利用し、子供たちが8泊9日の日程で曾爾村の国立曾爾青少年自然の家から三重県熊野市までの約185キロを自転車で走破する「夢冒険・真夏にチャレンジ」がこのほど行われた。子供たちは、熊野古道の散策やカヌー体験などのイベントも楽しんだほか、さまざまな課題にぶつかりながらもたくましく乗り越え、大きな感動や達成感を味わった。

「夢冒険」は、子供たちの信頼感や協調性などをほぐすもとと同施設が毎年企画している。今回は、県内や大阪、兵庫、京都、三重の各府県から集まった小学5年から中学2年までの計24人が参加した。

一行は、伊勢本街道や国道42号などを1日約5〜50キロ、自転車で移動。道中の多くが山

励まし合って

自転車185キロ

曾爾青少年自然の家 24人ゴール

間部で、峠など起伏の激しいところでは足が疲れたりお尻が痛くなったりしたが、くじけずペダルを踏み続けた。また、キャンプの設営、食事の用意なども、協力し合いながら自分たちで取り組んだ。

このほか、熊野古道・ツツラト峠の散策、川をさかのぼる「リバートレッキング」、熊野市・遊木漁港からの漁業体験などもあり、楽しみながら自然にふれた。

最終日には、参加者1人1人に「表彰状」が手渡された。橿原市の小学6年、大谷直嗣君(11)は「自転車でこんなに遠くまで行けるのか不安で、途中でくじけそうになったけど、みんなに励まされてゴールできた」と話した。



山あいの道を元気よく快走する子供たち